◇委員の紹介◇

野村證券株式会社 IB ビジネス開発部 財務戦略グループリーダー
兼 サステナブル・ビジネス開発部
エグゼクティブ・ディレクター
芹口　尚子

2025 年 4 月にサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の非常勤委員に就任しました芹口と申します。私は銀行で融資業務等を経験した後、野村證券株式会社に入社し、2010 年以降は投資銀行部門において事業会社の財務戦略にかかる分析を担当し、株式・債券の発行及び M&A 等のオリジネーション業務に従事しています。

私が担当する株式価値及び信用力の分析・評価においては、例えば、競争力の源泉である研究開発のように、以前から利益やキャッシュ・フローの見通しに影響を及ぼす要素として非財務情報（サステナビリティ情報）が織り込まれてきました。近年では気候変動リスクの認識の拡がりや企業の社会的責任の重要性の高まり等を背景に、投資家の投資判断のプロセスにおいてサステナビリティ情報を考慮することがより浸透してきたと認識しています。

このような中、2025 年 3 月に SSBJ が公表したサステナビリティ開示基準（SSBJ 基準）は、グローバル・ベースラインとなる国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の IFRS サステナビリティ開示基準と整合し、投資家等の主要な利用者が企業への資源提供の意思決定を行うにあたり有用な情報開示に焦点を当てています。国際的な比較可能性の向上とともに、財務的影響等、財務諸表とつながりのある情報が拡充することが期待され、資本市場において当該基準が設定される意義は大きいと考えています。

テーマ基準は現時点では気候のみですが、ISSB は 2 つのリサーチ・プロジェクト（生物多様性、生態系及び生態系サービスと人的資本）を検討しており、業種によって異なる状況を考慮したリサーチもしくは基準開発が段階的に進む可能性があります。また、財務諸表とサステナビリティ情報のコネクティビティ（つながり）はこれからさらに発展していく領域と考えていますが、ISSB は国際会計基準審議会（IASB）と連携した取り組みを進めており、強い関心を持っています。

ISSB 及び SSBJ の公開草案については、公益社団法人日本証券アナリスト協会「サステナビリティ報告研究会」の委員及び日本証券業協会「サステナビリティ基準ワーキング・グループ」の主査として、意見発信を行って参りました。今後は SSBJ の非常勤委員として基準開発に関与することに重責を感じておりますが、利用者の意思決定に有用な情報が開示され、資本市場の発展に資する基準が開発されるよう貢献していきたいと考えておりま

す。そのためには、利用者をはじめ、関係者の皆様のご意見を日頃から確りお聞きし、丁寧に議論を重ねていくことが不可欠です。資本市場の仲介機能を担う証券会社において、企業と投資家の双方と関わりながら実務を担ってきた経験を活かし、尽力して参ります。

財務諸表とのつながりの観点では、公益財団法人財務会計基準機構（FASF）の「会計人材開発支援プログラム」第２期に参加させて頂き、会計基準の基礎となる考え方等、学んだことを活かして貢献できるよう努めて参ります。